実社会対応プログラム（公募型研究テーマ）
◆課題（研究領域）：「制度、文化、公共心と経済社会の相互連関」
◆研究テーマ：「日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関」に関する研究」

研究期間：H27.10～H30.9
委託費総額：1，070千円

＜研究代表者＞

齋藤貴之：星城大学リハビリテーション学部／講師

＜専門分野＞
民俗学、文化人類学

＜研究目的・概要＞

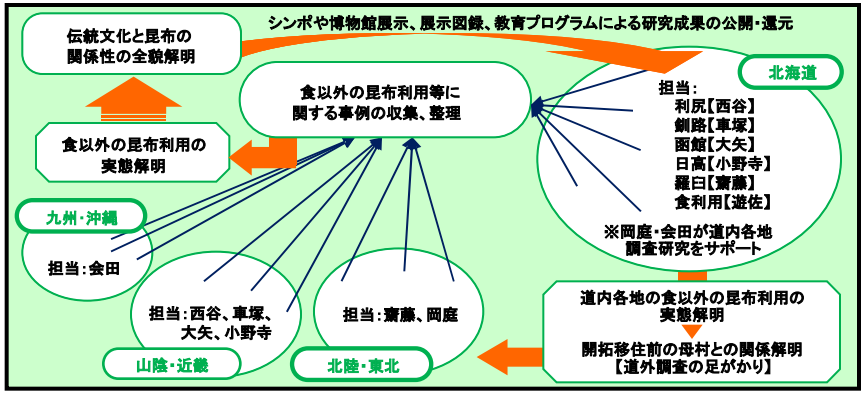
日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の関係性が不明瞭で、本来であれば、地域の維持、発展、活性化につながるはずの関係性がうまく機能していない。

実務者と協働で日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関の存在を明らかにし、地域博物館発、超自治体型の新たな教育政策の開発、実現を図る。

- 食と食以外の両面から昆布利用の実態を調査。
- 昆布文化と道内生産地の経済社会の関係性の解明。
- 地域博物館を舞台とした体験型郷土教育プログラムの開発と超自治体的共同教育システムの構築。

食と食以外の両面から日本の伝統文化における道内産昆布の役割の再評価を促し、道内昆布生産地の包括的な維持、発展、活性化に貢献することを目指す。

＜研究計画の特徴＞



「北海道の昆布」を軸とした日本の伝統文化の再構築と体系化に取り組みつつ、昆布生産地と地域博物館の未来を考える。

＜目標とする研究成果＞

（1）食と食以外の両面から昆布利用の実態を解明する。

現地調査をもとに、特に、①食以外の昆布利用にどのような多様性があるのか、②その多様性はどのようにして生じたのか、③それらが伝統文化の形成にどのような影響を及ぼしてきたのか、などを明らかにする。

（2）地域博物館を利活用した体験型郷土教育プログラムを開発する。

自らが住む地域の人々や両親が生産する昆布が日本の伝統文化を支え、その形成、維持に重要な役割を果たしていることをわかりやすく学び、実感するための教育プログラムを開発する。